

イヨネスコ戯曲全集 3 (全4巻)

定価 九五〇円

一九六九年六月一〇日印刷
一九六九年六月二〇日発行

訳者 ①

大久保輝臣

諏訪 塩瀬 安堂 信也

発行者

草野貞之

印刷者

田中昭三

発行所 株式会社 白水社

東京都千代田区神田小川町三の二四

電話東京(291)七八二(代)

振替東京 三三二二八

郵便番号 一〇一

理想社印刷・松岳社製本

イヨネスコ戯曲全集

3

Titre : ŒUVRE THÉÂTRALE IONESCO, tome 3

L'impromptu de l'Alma ou le caméléon du berger

(THÉÂTRE II, © 1958)

Tueur sans gages (THÉÂTRE II, © 1958)

Scène à quatre (THÉÂTRE III, © 1963)

Délire à deux ... A tant qu'on veut

(THÉÂTRE III, © 1963)

Le Roi se meurt (THÉÂTRE IV, © 1966)

Auteur : Eugène IONESCO

© Éditions Gallimard.

Copyright in Japan by Librairie Hakusuisha.

イヨネスコ戯曲全集

3
ONE

アルベール・イヨネスコ
無給の夜
四人の狂
二人の死
瀕死の夜

'IMPROM

白水社

'LIE ID CA

目次

アルマ即興……………	7
無給の殺し屋……………	65
四人ばやし……………	169
二人で狂う……………	183
瀕死の王さま……………	211
解説（大久保輝臣）……………	285

大久保 輝臣 訳

アルマ即興

——羊飼いのカメレオン——

L'IMPROMPTU DE L'ALMA
ou le caméléon du berger
© Éditions Gallimard, 1958.

人物

バルトロメウスⅠ

バルトロメウスⅡ

バルトロメウスⅢ

マリ

イヨネスコ

たくさんの本や原稿に囲まれた中で、イヨネスコは机に顔をふせて眠っている。片手に持ったボールペンの先が宙に浮いたまま。ベルが鳴る。イヨネスコはいびきをかく。ふたたびベルが鳴って、どんどんとドアがたたかれ、《イヨネスコ、イヨネスコくん！》の呼び声。とうとうイヨネスコは飛び起きて、両眼をこする。

男の声　イヨネスコくん！　いますか？

イヨネスコ　いますよ……ただいま………どうしたんだろう、また？

くしゃくしゃの髪をなでつけながら、イヨネスコはドアのほうに近寄って、あける。博士のガウンを着たバルトロメウスⅠが現われる。

バルトロメウスⅠ　やあ、こんにちは、イヨネスコくん。

イヨネスコ　こんにちは、バルトロメウスさん。

バルトロメウスⅠ　よかったなあ、いてくれて！　いやは

や、すんでのことで帰りがけたのに。やっかいなはめになるところだった、お宅には電話がないときているし……とこでいいたい、なにをしていたんです？

イヨネスコ 仕事をしていましたよ、仕事を……つまり書いていました！

バルトロメウスI 新しい戯曲を？ もうできましたか？ こっちは待ちかまえているんだが。

イヨネスコ (脇掛け椅子^{のひま}に腰をおろして、バルトロメウスに椅子を指さす) まあ、おかけください。(バルトロメウスすわる) いやあ、目下そいつをやっているところなんですがね、かかりつきりです。すっかりくたくたですよ。ぼつぼつはかどつてはいるが、なかなかうまくいなくて。ぜひ完璧なものに仕上げたい、いたずらに長かったり、繰り返しがあつたりしてはまずいでしょう……ですから、ほら、目下刈り込みの、刈り込みの最中なので……

バルトロメウスI するともう、書き上がっているわけですね？……第一稿か、それでいいから見せてください……

イヨネスコ ですからそのう、目下せりふを刈り込んでいるところなので……

バルトロメウスI というと、まだ書き終わっていないうちから、もう縮めているっていうことですかね！ まあ、それも一つのやり方には違いがないが。

イヨネスコ でもそれがぼくのやり方なので。

バルトロメウスI 要するに、あんたの芝居は書けているですか、いないんですか？

イヨネスコ (机の上にある紙の山をかきまわしながら) 書けていますよ……えーとそのう、まだです……つまり、ほら、完全にはね。むろん、ここにあることはある！ でも、今のままではとても読んで聞かせられない……これはまだ……

バルトロメウスI ……でき上がっていないから！……イヨネスコ いやそうじゃない、つまりそのう……まだ完全には仕上がっていないから！ それとこれとは違ひますよ。

バルトロメウスI 残念だなあ。せっかくのチャンスをおがしてしまふ。実はね、非常におもしろそうな提案があるんですよ。ある劇場で、是が非でもきみの脚本^{ほん}をほしがっていいね、支配人たちは今すぐそれを手に入れたがっている。連中はわたしに演出をやってくれと言ってきた、それも最新の演劇理論、現にわれわれが生きてい

るこの時代、この超科学的で超民衆的な時代にふさわしい演劇理論、それにしたがってやってくれて。宣伝その他、金のめんどろはいっさい先方でみてくれる。ただし条件があつてね、役者の数はせいぜい四、五人程度、装置にあまり金をかけないでくれているんだ……

イヨネスコ 先方に伝えてくださいよ、二、三日待つてくられて。それまでには必ず全部刈り込んでおきますから……もともと芝居のシーズンだってそろそろ打ち上げになるころだが……

バルトロメウスⅠ あんたの脚本のほうだってそろそろ打ち上げになるころなら、まだなんとか話をつけられるかもしれないな……

イヨネスコ どここの劇場ですか、それは？

バルトロメウスⅠ 新しい劇場でね、支配人は科学的な男だし、劇団も若い科学的な俳優の集まりなんだ。みんなあんたの芝居でこけら落としをしたがつている。あんたの戯曲を科学的に扱おうってわけさ。劇場そのものはたいてい大きくはない。椅子席が二十五、立見席が四つだからね……まさに選ばれた民衆の観客のための劇場なんだ。

イヨネスコ 悪くないな。そいつを毎晩満員にすることが

できればねえ！

バルトロメウスⅠ せめて半分の入りだとしても、わたしなら満足するだろうね……要するに、連中は即刻はじめたがつているんだ。

イヨネスコ 賛成ですよ、ぼくも。あーあ、脚本さえちゃんと仕上がっていけばなあ……

バルトロメウスⅠ でも、大部分は書き上がっているんでしょうが！

イヨネスコ そう……まあね……たしかに大部分は書き上がっている！

バルトロメウスⅠ で、その脚本のテーマは？ 題は？

イヨネスコ (いくらかうぬぼれて、同時に当惑して) えーと……テーマですって？……えーと……ほら、ご承知のとおり、ぼくは自分の芝居をどうしゃべったらいのか、さっぱり見当がつかないんですよ……なにかもせりふの中に、演技の中に、舞台から受ける印象の中にあるし、とても視覚的なものですかね、例によって……ぼくの作品ではね、いつもある一つのイメージが、最初のせりふのやりとりがきっかけになって、創造の機械仕掛けが一気に動きだす。それからもう、作中人物に運ば

れていくまま、自分が正確にどこに行くのかぼくにもさっぱりわからない……ぼくにとっては、どんな戯曲でも、一つの冒険というか探究というか、不意に目の前に現われたある世界を発見することなので、そんな世界が存在するというのに、まず自分自身がびっくりしてしまふ……

バルトロメウスⅠ わかりきってる、そんなことは！ いずれも経験にもとづく考察にすぎない。あんたの言う創造の機械仕掛とやらについては、すでにあんた自身が何度も繰り返し説明をしてきた、試演会のときでも、雑誌の記事でも、インタヴューの中でも。もっともわたしはその創造って言葉は虫が好かない。逆に、機械仕掛って言葉のほうは大好きなんだが。

イヨネスコ（すなおに） そうですね、たしかにぼくはその……失礼……創造の機械仕掛ってやつについては、すでに何度もしゃべっている。たいした記憶力の持ち主だなあ、あなたって人も！

バルトロメウスⅠ あんたの脚本のことだがね、もう少し突っ込んだ話をしてくれたまえ。いったい、今度の新しい脚本の製作過程をうながしたそもそもそのイメージはなんであるのか……

イヨネスコ えーとね……えーと……そいつはいささか複雑でしてね……その質問はまさに難問と言うべきだなあ……つまり、こうなんです……今度の脚本の原題は「羊飼いのカメレオン」というので。

バルトロメウスⅠ どうしてまた「羊飼いのカメレオン」なんです？

イヨネスコ それがね、この芝居における根底の場面で、原動力なんです。いつだったか、地方のある大都市で見たんだけど、夏の午後三時ごろ、一人の若い羊飼いがカメレオンを抱きしめていたんです……これがものすごく印象的でしてね……これを使ってひとつ悲劇的なファルスを書いてやろうときめたんですよ。

バルトロメウスⅠ そいつは科学的に見てありうることだな。

イヨネスコ それはまあ出発点にするだけでね。ぼく自身も、カメレオンを抱きしめている羊飼いをほんとに舞台に出してみようか、それともただその場面を思い出させるだけにしておいて……芝居がはじまってからの見えな背景にとどめておくか……まだきめかねているんです……じつさいのところ、こんなものはたんなる口実の役にたつだけなんでしょうが……

バルトロメウスⅠ 惜しいなあ。その場面は、自我と他者

考えを持つ資格はない……考えを持つのはわたしの役目なんだ。

との調和を絵に描いたようなもんだって気がするがね。
イヨネスコ 実はね、今度の芝居ではよく自身が舞台に
入るんですよ！

イヨネスコ じゃあ、ぼくの経験とでも言いますかな……
バルトロメウスⅠ そんなものは価値がない、科学的じゃ
ないんだから！

バルトロメウスⅠ そればかりじゃないか、あんたのす
ることといええ。

イヨネスコ ……でしたら、そのう……ぼくの信念とでも
言うか……

イヨネスコ だとすると、またしてもそうなるわけで。

バルトロメウスⅠ それならまあいい。だがそれとても一
時的にすぎないから、こっちで修正するとするか。とに
かくまあ続けてごらん、あんたの仮の報告を……

バルトロメウスⅠ 要するに、あんたは羊飼いいになるのか
ね、それともカメレオンに？

イヨネスコ (しばらく間をおいてから) どうも。やっぱ
りぼくは羊飼いだと言われてもしかたがない、演劇はカ
メレオンみたいなもんだし、このぼくは芝居の仕事をや
ってきたんだから。それに演劇はむしろ変わるもので
すよ、演劇とは人生ですからね。それは人生のように変
わりやすい……カメレオンでやつもまた人生なんだ！

イヨネスコ いやあ、むしろカメレオンにはなりません
よ。ぼくは毎日色を変えるわけじゃないし……そんな
たやすく近ごろの流行になびいたりしませんから、
だれかさんみたいにね……このさい名まえは出さないほ
うが……

イヨネスコ (しばらく間をおいてから) どうも。やっぱ
りぼくは羊飼いだと言われてもしかたがない、演劇はカ
メレオンみたいなもんだし、このぼくは芝居の仕事をや
ってきたんだから。それに演劇はむしろ変わるもので
すよ、演劇とは人生ですからね。それは人生のように変
わりやすい……カメレオンでやつもまた人生なんだ！

バルトロメウスⅠ すると、あんたは羊飼いいになるんだ
ね、きつと？……

イヨネスコ ……カメレオンでやつもまた人生なんだ！
バルトロメウスⅠ その文句は書きとめておこう、それは
まさに一個の思想に値する。

イヨネスコ 羊飼いいにもなりやしませんよ！ さっきも
言ったとおり、これはたんなる口実、出発点にすぎないん
だから……事実、よく自身が舞台に出るのは、演劇論の
口火を切って、自分自身の考えを述べるためなので……

イヨネスコ ……カメレオンでやつもまた人生なんだ！
バルトロメウスⅠ その文句は書きとめておこう、それは
まさに一個の思想に値する。

バルトロメウスⅠ きみは学者じゃないんだから、自分の

イヨネスコ ……カメレオンでやつもまた人生なんだ！
バルトロメウスⅠ その文句は書きとめておこう、それは
まさに一個の思想に値する。

口火を切って、自分自身の考えを述べるためなので……

イヨネスコ ……カメレオンでやつもまた人生なんだ！
バルトロメウスⅠ その文句は書きとめておこう、それは
まさに一個の思想に値する。

バルトロメウスⅠ きみは学者じゃないんだから、自分の

イヨネスコ ……カメレオンでやつもまた人生なんだ！
バルトロメウスⅠ その文句は書きとめておこう、それは
まさに一個の思想に値する。

んたは！

イヨネスコ ……その本質的性格が新しさに存するところのいわゆる《新しい演劇》についてね……ばく自身の観点を説明するつもりですよ。

バルトロメウスI（大げさな身ぶり）観点はあっても、それを見とおす道具がない！

イヨネスコ ……まあ、一種の即興芝居になるでしょうな。バルトロメウスI とにかく読んでみてくれたまえ、今までに書いた部分を。

イヨネスコ（わざと臆して）それが完全には仕上がってないんです、前にも言ったとおり……せりふを刈り込んでないし……でもまあ、ほんの一部だけ読んでみませんか……

バルトロメウスI うかがいましょう。わたしがここに来たのもあんたの芝居を判断して、訂正するためなんだから。

イヨネスコ（頭をかいて）どうもいささか気づまりでしてね、自分の書いたものを読むことは。自分の文章ってやつを聞くと、胸がむかむかしてくるし……バルトロメウスI 作家にとって自己批判は名誉ですよ。

批評家にとっては不名誉だが。

イヨネスコ よろしい。とにかくまあ読んでみましょう、

せっかくいらしたんだし。（バルトロメウスIはゆったりと椅子に腰を落ち着ける）さて、これが芝居の冒頭の部分です、第一景。「たくさんの本や原稿に囲まれた中で、イヨネスコは机に顔をふせて眠っている。片手に持ったボールペンの先が宙に浮いたまま。ベルが鳴る。

イヨネスコはいびきをかく。どんとどんとドアがたたかれ、《イヨネスコ、イヨネスコくん！》の呼び声。どうとうイヨネスコは飛び起きて、両眼をこする。ドアの向こう側から声がする。《イヨネスコくん！ いますか？》イヨネスコ、《いますよ！……ただいま！……どうしたんだろう、また？……》くしゃくしゃの髪をなでつけながら（そう言いながら、イヨネスコは実際にその動作をする）イヨネスコはドアのほうに近寄って、あける。バルトロメウスが現われる。バルトロメウス、《やあ、こんにちば、イヨネスコくん！……》イヨネスコ、《こんにちば、バルトロメウスさん》バルトロメウス、《よかったなあ、いてくれて！ いやはや、すんでのことで帰りがけたのに。やっかいなはめになるところだった、お宅には電話がないときているし……とこでいったい、なにをしていたんです？》イヨネスコ、《仕事をし

ていましたよ、仕事を……つまり書いていました！……」

バルトロメウス、《新しい戯曲を？ もうできましたか？

こっちは待ちかまえているんだが！……》イヨネスコは脇掛け椅子に腰をおろして、バルトロメウスに椅子を指さす、《まあ、おかけください！》

自作を読みながら、イヨネスコは前と同じように脇掛け椅子に腰をおろす。そのとき実際にベルが鳴り、続いてどんとどんとドアをたたく音。

別な男の声 イヨネスコくん！ いますか？

イヨネスコが自作を読んでいる間、バルトロメウスIは賛意を示すようにうなずいていたが、ドアのほうに声がすると、そっちに視線を走らせる。

イヨネスコ いますよ、ただいま！ どうしたんだろう、また？

くしゃくしゃの髪をなでつけながら、イヨネスコはドアのほうに近寄って、あける。バルトロメウスII

が現われる。

バルトロメウスII やあ、こんにちは、イヨネスコくん。イヨネスコ こんにちは、バルトロメウスさん。

バルトロメウスII (バルトロメウスIに) やあ、これはどうも、バルトロメウスくん。いかがです、ご機嫌は？
バルトロメウスI (バルトロメウスIIに) やあ、これはどうも、バルトロメウスくん、いかがです、ご機嫌は？
バルトロメウスII (イヨネスコに) よかったなあ、いてくれて！ このまま帰ったりしたらめんどうなはめになるところだった……お宅には電話がないときているし……ところでいったい、なにをしていたんです？
イヨネスコ 仕事をしていましたよ、仕事を、書いていました……まあ、おかけください！

イヨネスコはバルトロメウスIIに椅子を指さして、自分もまた腰をおろす。ドアにまたノックの音、そして三人目の男の声が呼ぶ。

三人目の男の声 イヨネスコ！ イヨネスコくん！ いますか？